

<b>海外アカデミック・ディスカッション</b>	
<b>舞踊家の思想に関する実践的研究</b>	
白澤 舞	比較社会文化学専攻
期間	2008年8月11日～9月4日
場所	アメリカ合衆国 ニューヨーク
施設	Trisha Brown Dance Company, Dance New Amsterdam

## 内容報告

### 1. 海外アカデミック・ディスカッションの必要性

これまでの舞踊家の人物研究では、批評・評論文などの資料や本人の言説、作品に関する論文など文献資料を基に行われてきた。

舞踊という文化形態の研究において、なかでも舞踊家の思想を探るにあたり、すでに言語化された資料からの検討だけでなく、実践的なアプローチが必要である。舞踊は、身体感覚や表現であり、全てを厳密に言語化することが難しいからである。また舞踊家自身によって既に言語化されているものを理解するうえでも、実際の体験によって獲得された体感に基づかなければ、本人の意図を正しく解釈するのは難しい。

そのため舞踊家の思想研究において、すでに言語化された資料からの検討だけでなく、研究者自身が実際にワークショップ参加などの体験を通して実践から体感を得、その体感に基づいて実践者たちへインタビューやディスカッションをすることによって再言語化した資料からの検討という2つの方向からの探究が重要であると考えた。また、すでに言語化された資料の解釈についても、実践によって得られた体感や知識をふまえ、再検討する必要があると考えた。さらに、現在日本においてコンテンポラリー・ダンスや現代舞踊と呼ばれている舞踊形態の動向に関する理解を深めるために、その誕生と発展に大きく影響を及ぼしている欧米における舞踊文化活動の現状と実態を知る必要がある。以上、日本の舞踊文化研究において、実践者の視点を体験によって獲得した体感に基づいて解釈するという観点を取り込む試みとして、「海外アカデミック・ディスカッション」への参加が今後の研究に非常に有意義となると考えた。

### 2. 海外アカデミック・ディスカッションでの成果及び今後の研究における位置

博士論文では『トリシャ・ブラウン (Trisha Brown 1936-) 研究』と題して、1960年代から現在まで活躍を続けている舞踊家、トリシャ・ブラウンの舞踊思想を明らかにすることを目的としている。そのためこれまで、文献研究により、①時代背景、②作品特徴、③作品創作意図、④作品創作過程を検討してきた。今後、学位論文に向け、舞踊家の思想のなかで重要視される身体観が反映されやすいと考えられている、トレーニング方法および採用しているテクニックについて明らかにすることが必要である。そこで、ブラウンの身体観を検討するために、文献研究だけではなく、実際にトレーニングクラスを体験するなどして、実践的に研究を進めていきたいと考えた。

今回の「海外アカデミック・ディスカッション」では、ブラウンが主催する Trisha Brown Dance Company (以下TBDC) で採用されているダンステクニックのトレーニングクラスの受講とTBDCのメンバーであり、TBDCで開講されているダンステクニッククラスの教師、男女2名にインタビューを行うことができた。なお、テクニックのトレーニングクラスは、そのテクニックの創始者本人が教えるクラスを受講した。これらから得られたものは、今後博士論文等の研究を支える重要な資料となることが確認された。

今後の研究において舞踊家の思想をより正確に明らかにするために、実践者の視点を解釈する際、今回の「海外アカデミック・ディスカッション」に参加したことにより達成できた、実践を通して得られた体感と、その体感に基づいて行ったインタビューおよびディスカッションによって得られた言語における理解とをふまえ、これまでの研究と照らし合わせて再検討

していくこととしている。

今後これらの研究は、それぞれ次のようなテーマで公表を予定している。これまで文献資料を用いて研究して来たトリシャ・ブラウンの作品創作過程から舞踊創作意図を探るというテーマについては、今回のプログラムで得られた資料と照らし合わせることにより再検討を行った。これについては、お茶の水女子大学人

間文化創成科学論叢に投稿した。また、TBDCで採用されているテクニックとそこから見いだされるトリシャ・ブラウンの身体観についてをテーマに、舞踊学会学術誌「舞踊学」に投稿する予定である。学会発表は、舞踊学会大会において、前述のいずれかのテーマで行いたいと考えている。

しらすわ まい／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻

#### 【指導教員のコメント】

修士論文から継続して、1960年代から現在まで活躍を続けている舞踊家、トリシャ・ブラウンの舞踊思想を明らかにすることを目的とした研究を行っている。これまでは、文献研究により時代背景、作品創作意図、作品創作過程を丹念に検討してきた。今後、学位論文に向け、舞踊家の身体観を映し出すトレーニング方法およびテクニックについて明らかにする必要があると考える。そこで、このたびの海外アカデミック・ディスカッションによって、ニューヨークに赴き、トリシャ・ブラウンカンパニーで採用しているテクニック・クラスを実際に体験し、自身の身体で体験したものをインタビューおよびディスカッションによって実践的に捉えることができたことから、研究のさらなる発展が期待できる。

特に、テクニック・クラスを指導している教師にインタビューし、具体的な身体感覚を言葉で確認できたことは、トリシャ・ブラウンがダンサーにどのような身体性を要求しているのかを明らかにする重要な手がかりになったと評価できる。

こうしたインタビューにおける内容を踏まえて、彼女が人間文化創成科学論叢に論文を投稿へとつながったことは、海外アカデミック・ディスカッションにおける大きな成果であると考えられる。

(お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 教授 猪崎 弥生)